

済美養護学校

興味・関心の幅がひろがる学校図書館

今の学校図書館

小学部は令和7年4月より学校司書が配置され、11月に学校図書館が開館した。中学部は令和7年9月の中学部移転と同時に学校図書館が開館、学校司書が配置された。

小学部では以前から設置してあった廊下の図書コーナーを継続し、児童が気軽に図書を選べる環境を整備している。

中学部では週2回、昼休みに玄関ホールにて移動図書館を開き、本に親しむ機会を提供している。

教員と学校司書は読み聞かせに加え、更に児童・生徒の言語環境を豊かにするための方法を模索している。

学校図書館の運営

図書館担当の教員が授業支援や研究に関わる意見要望を取りまとめ、学校司書と連携して学校図書館の活用を推進している。図書館担当の教員は管理職と学校司書をつなぐ役割を担い、校内で共通の認識をもって学校図書館の運営にあたっている。学校司書は図書整備、レファレンス等の司書業務全般を担い、読み聞かせ等の授業支援を行っている。

1年間の主な活動

- 年間を通して定期的な読み聞かせ
- 図書館だより発行(隔月発行)
- 公共図書館との連携
 - ◆ 永福図書館の司書による読み聞かせ会
 - ◆ 団体貸し出しの利用

特色ある取組

● 蔵書

提供する絵本の質を高めるために、繰り返し読む絵本は絵と物語のクオリティを大切にしている。

・視覚情報を優位に働かせる児童・生徒のために絵本や図鑑が中心である。

・聴覚情報を優位に働かせる児童・生徒には、できるだけ人の声で語りかけるとともに、音が出る書籍(歌絵本やことば図鑑等)を提供している。

● 授業支援

読み聞かせなどの実践を重ねながら児童・生徒に蓄積される語彙が自然に増えるような環境作りを心がけている。

季節を感じられる絵本や、行事に関連した内容の絵本、数や形、物の名前などを学習できる絵本とともに、物語性のある昔話や創作童話は絵や文を吟味して選書し児童・生徒の内言語が豊かなしつかりとした日本語に導かれるよう心がける。必要に応じて紙芝居、パネルシアター、大型絵本や点字付きさわる絵本、LLブックなどを活用する。

これからの学校図書館

今後は、言葉(内言語)を豊かにし、児童・生徒の主体性を育むことを目標に、教員と学校司書が連携しながら学校図書館の活用を推進する。

児童・生徒の興味・関心や学習活動に対応した図書を計画的に整備し蔵書の拡充を図り、学校図書館機能の充実に努める。



小学部学校図書館



中学部学校図書館(済美教育センター内)